# 編さん後記

開基八十八周年を迎える昭和五十三年は滝川市制二十周年に当たり、旧滝川市と江部乙町の合併八年目の年である。この各々を人生に例えて米寿、成人の祝い年であり、幼年期から少年期を迎える意義深い年であるといえる。

このことから滝川市では祝賀を行う方針を出し、昭和五十二年度から諸準備を進めることになった。滝川市史の編さん事業もこの一つとして示されたものである。

これらの諸行事・事業を進める主担課は総務部総務課であり、本来の職務に併せてこの大行事を遂行するのが総務課長を命ぜられた私の責任であった。

諸行事の立案を進める一方、市史編さん事業については執筆者を選定することが急務であるが手間どってしまい、ようやく昭和五十二年八月に至って元小学校教員村田武雄氏の快諾を得て編さん事務局体制を整えることになった。

八月八日滝川市史編さん委員会規則を制定し、同日付で事務局長に総務部長兼務青木仁八、事務局次長に総務課長兼務藤原廣光、編集員には専任副主幹越智正光、嘱託村田武雄の発令があった。

同年九月一日、次の一〇名の方々が編さん委員に委嘱され委員会が設置されて第一回委員会を開催した。

白水　務（前市史編さん委員）　佐藤民治郎（前市史編さん委員）
国兼　昇（前市史編集員・郷土研究会員）　武田　セイ（郷土研究会員）
一木　善二（江部乙町史編集員）　中村　正直（市議会議長）
早弓　房松（学識経験者）　後呂　義久（市助役・前市史編さん事務局長）
草浦　正己（学識経験者）　高木　正義（市収入役・元江部乙町助役）

委員長に白水務氏、委員長代理に早弓房松氏が選出され、滝川市史の内容については前市史町史を参考にして文体を平易に、しかも史実に基づく密度の濃いものとし、編さん方針を次のとおりとした。

1　滝川市七十周年記念の滝川市史及び江部乙町六十周年記念の江部乙町史を根幹として、これに欠けている内容を肉付けし、更に各々の刊行後から昭和五十二年度までの資料を収集して編さんすることを原則とする。

2　市史は全一巻とし、B5判二段組（二六行×三〇字×二段）で、一、五〇〇ページ程度とする。

3　完成目標を昭和五十四年末までとする。

また、市史執筆要項、原稿及び編集基準、編集史料収集要領が協議決定され、諸種の事情から市史の編集執筆は編集員が行うことになった。

幸いに前市史の原稿資料や江部乙町史を資料とすることができるとの考えから、昭和五十二年末からでも執筆する計画を持ったが、実際に筆を持つ編集員は始めてのことでもあり、前市史・町史の内容検討や見直しがあり、補足や前市町史刊行後の二〇年間にわたる

資料収集は時代の変化著しい期間でもあり、計画どおりにならない状況であった。

翌五十三年四月一日、事務局長に金山二男総務部長兼務の発令があり、事務局体制の強化をはかる要望が入れられ、同月十一日付で臨時事務補助として大西晃子さんの配置を喜んだのも束の間に、村田編集員から突然病気を理由の退職願が出され同月二十二日に退職し、後任の適任者が得られないため、完全に業務停滞状況が続いた。

開基記念式典等の行事も無事終了したある日、市長から私に市史編集をやらないかとの話しがあった。各市町村史の執筆者を見ると、その道の権威者か長い間行政をあずかっていた方々が多く、私はその任に耐え得る器ではないと考えていたので、自信がないと答えた。

しかし、執筆者を得られず中断している市史編集業務を投げておくわけにいかず、昭和五十三年十月一日私に編集員の専任を命じた。

編さん事務局を設置して既に一年二ヵ月を経過していたので、この遅れを取り戻すべく直ちに第一編からの執筆に入った。

前滝川市史の編集にたずさわり、国兼昇氏の懸命な努力によって完成を見た当時を思いおこし、資料を求めながらの執筆を続けた。

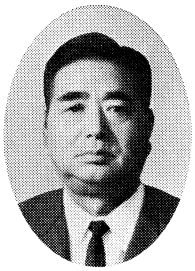
以来、二ヵ年を経て脱稿の運びに至ったが、この間、昭和五十四年五月一日、納内小学校長在職当時に納内屯田兵村史の執筆にあたられた粟井稔氏を編集員に迎えることができ、執筆を分担して真剣に取組まれたので市史の刊行を早めることができ、また内容も充実して全二巻の大冊となってしまった。

執筆分担は上巻全部に当たる第一編北海道抄史、第二編自然、第三編開拓、第四編屯田兵制、第五編行政、第六編財政、第七編厚生と下巻の第十一編交通・運輸・治水、第十二編治安、付年表を私が執筆し、粟井編集員は下巻の第八編産業・経済、第九編教育、第十編宗教、第十三編生活と文化、付二十一世紀への展望を執筆した。

原稿資料としては多くの文献、資料を参考とし、次の前市史をはじめ滝川での既刊史書は非常に参考となった。

| | | |
|---|---|---|
| 滝川町発展史 | 大正二年十月三十一日発行<br>富良野鉄道祝賀会発行 | 旭川町坂東好太郎編<br>一三九頁 |
| 滝川昔物語 | 昭和十四年七月二十五日発行 | 著者　高橋信行<br>五〇頁 |
| 滝川町史 | 昭和十五年十月一日発行<br>滝川町役場発行 | 滝川町史編さん委員会<br>編　二四二頁 |
| 滝川小史わがふるさと | 昭和四十五年九月十二日発行<br>三〇一頁 | 滝川市郷土研究会発行 |
| 滝川市史 | 昭和三十七年七月一日発行<br>発行者　滝川市長 | 滝川市史編さん委員会<br>編集　一、五一七頁 |
| 江部乙村史 | 昭和七年四月二十五日発行<br>江部乙村役場発行 | 編者鞍田武夫<br>四六六頁 |
| 江部乙町文化史 | 昭和三十三年七月二日発行 | 編さん発行岩佐職司<br>二一三頁 |
| 江部乙町史 | 昭和三十三年九月十日発行<br>江部乙町役場発行 | 編さん責任者鞍田武夫<br>九四五頁 |

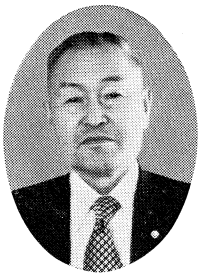
また、編集に当たっては編さん委員や道教育大学西田秀夫教授、芳賀卓助教授などをはじめ多くの方々の指導助言を受け、資料収集に当たっての協力を得たが、さらに内容の充実には北海道大学北方資料室、道庁行政資料室、北海道行刑資料館、道立図書館をはじめ函館、札幌、小樽、滝川の各図書館、市郷土館などで適切な資料の提供を受けることができたことは、執筆者にとってこのうえない喜



委　員
佐藤民治郎

委　員
一木　善二

委　員
国　兼　舜



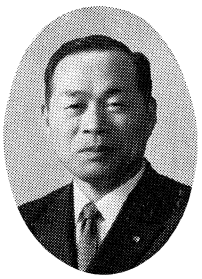
委　員
早弓　房松

委員長
白　水　務

前　委　員
後呂　義久

委　員
金山　二男
（前事務局長）

委　員
高木　正義



委　員
中村　正直

委　員
武田　セイ

前編集員
村田　武雄

事務局長
岡田　秀夫

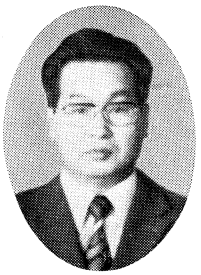
元事務局長
青木　仁八

前　委　員
草浦　正己

編集助手
大西　晃子

編　集　員
越智　正光

編　集　員
粟　井　稔



編　集　員
藤原　廣光

びであり、深く感謝を申しあげる次第である。

昭和五十四年七月三十一日後呂委員が解任され、翌八月一日事務局長であった金山二男助役が委員に、また事務局長に岡田秀夫企画総務部長が兼務発令となった。その後、草浦委員が転出退任となった。

こうした中にあって終始資料の収集整理につとめ、さらに写真撮影から現像一切を担当した越智編集員、また資料の収集整理保管や年表照合整理に当たった大西晃子さんの献身的な努力が事業完遂へと導びいた大きな力となったことを特に付言しておきたい。

顧みて当初予定した昭和五十四年末完成目標が一年余の遅れとなり三年数ヵ月を要してしまった。内容についても「滝川市史」と名づけるに価するか、また大きな誤りがなかったか、失礼となる記載がなかったか、など疑問とするところであるが、まったくのしろうとであり、力乏しく過ぎたる重荷を負って、短期間に完成を見なければならなかったことに免じてご寛容を願いたいと思う。

希くは本市史が多くの方々に愛読され、また活用されて私の至らなかった点や誤りがあれば是正し、来るべき増補改訂の期には本市史を土台としてよりよいものへと展開していただければ望外の喜びである。

昭和五十五年十一月

編集執筆者　藤原廣光

滝川市史　下巻

昭和五十六年三月三十一日　発行

編集者　滝川市史編さん委員会

発行者　滝川市長　吉岡清栄

印刷　株式会社　ぎょうせい

本社営業所　東京都新宿区西五軒町五二
北海道支社　札幌市中央区北二条西一〇丁目一―三
電話〇一一）二四一―一九七一
〒〇六〇